

昭和30年度 対馬暖流海洋観測記録

1. 海洋観測調査

回数	調査期間	使用船		定線及び定点 (別図参照)	備考
		船名	トン数		
1	昭和 30. 5. 6 30. 5. 10	照洋丸	46.62	115	1. 調査事項 各点においてフランクトンの採集、気象観測、採水、水温、透明度、海流観の投入 2. 調査方法 1) フランクトンは罾ネットにて100m層から垂直曳網した 2) 稚魚は内田式稚魚ネットにて2~3節の速さで水平に約10分間曳網した。 3) 採水及水温測定は0, 10, 25, 50, 75, 100, 150, & 200mの各層を連結測定した。
2	30. 6. 21 30. 6. 29	照洋丸	46.62	115	
3	30. 9. 2 30. 9. 14	照南丸	98.93	300	
4	30. 11. 1 30. 11. 14	照南丸	98.93	300	
5	31. 1. 6 31. 1. 29	照南丸	98.93	300	
6	31. 2. 20 31. 3. 9	照南丸	98.93	300	

2. 調査結果のとりまとめと発表

対馬暖流系資源調査の一環として、すべての資料は西海区水研を通じてそれぞれ定められたところへ送り、又は報告してあり、これが全国のものをもとめて順次発行されているので、経費と時間の節減のため本報告書には記載を省略する。

屋久島発電の海底送電ルート調査

1. 目的

屋久島の豊富な電力を九州本土に直流海底送電するため、屋久島、本土間の海底調査を、県企画室の要望により研究会と協同で実施した。

2. 調査使用船 試験船 照南丸 98.93トン 300馬力

3. 調査期間 昭和31年3月20日～今年4月10日

4. 調査員

イ、電気研究会直流送電顧問委員会 山田委員長外ノ6名及び本場竹下外ノ名

5. 調査区間並に概要

イ、鹿兒島 — 針山 — 辺塚 針山及び辺塚の標点設定ならびに辺塚湾内及び湾外を測深し水中カメラにて撮影

ロ、辺塚 — 浦田 — 面之表 辺塚、浦田間の測深ならびに浦田湾内及び湾外の測深し水中カメラにて撮影

ハ、面之表 — 島間 — 安房 島間、安房間の測深、島間湾内の水中カメラ撮影

ニ、安房 — 種子島南端内倉岬 両区間の測深、内倉岬において水中カメラ撮影

ホ、楠川 — 島間 両区間の測深、楠川湾内の標点の設置ならびに土質調査。

ヘ、安房川 安房川口水中カメラ撮影及び測深。

6. 調査結果のとりまとめ発表

昭和31年9月鹿兒島県で発行した「屋久島海底送電に関する調査報告書」中Ⅱの「屋久島直流送電海底ケーブル・ルート調」の項で発表してある。